

「放課後学校」働く親支援

仕事も育児もがんばりたいお母さん、いらっしやい。新渡戸文化学園(中野区本町6丁目)の小学校が、放課後も子どもを預かり、習い事や勉強も教えてくれる全国でも珍しい「アフタースクール」を5月から始めた。

中野の私立小、NPOと運営

放課後の午後3時、美術室に同小の1年生6人が集まり、陶芸教室が始まった。先生は陶芸家の榎本蓉子さん(24)。近所に住む同学園中高の卒業生だ。教室は毎日開かれる。プログラムはテニスやピアノなどの習い事から、国語、理科、英語などの勉強まで10種類以上ある。週1回、12週間以上ある。週1回、12週間以上の元プロ野球選手の中畑清さんや狂言師ら、様々な分野の「プロ」を招くプログラムもある。

プログラムは、学園から業務委託を受けて一緒に教室を運営する「放課後NPOアフタースクール」が準備している。

同NPOの平岩国泰代表理事(67)によると、先生役は口



放課後、学園の美術室を利用しての陶芸教室。児童らは、作りたい器を描いてイメージをふくらませた。中野区本町6丁目の新渡戸文化学園

児童80人登録、住民も先生役

けて依頼することも多い。都市部は子どもを見守る地域コミュニティの機能が低下している指摘されるが、先生役として参加してもらえることで、地域の子どもたちを見守り役にもなってもらえる」と平岩理事は説明する。

学童保育と違い、子どもを預かるだけではなく習い事を充実させることで、塾に移動させずに校内で一貫して過ごしてもらえ、ことも強みだ。「働くお母さんが、安心して朝から晩まで子どもを預けられる」と同学園の豊川圭一理事長(67)は話す。

学園の保護者の共働キ率は今のところ、割弱だが、「時代を先取りする試み。今後、絶対に必要になる」と豊川理事長は強調。学園の看板に育てたい、と意気込む。

小学生276人中、低学年を中心に80人超が登録している。学園の小学校長がアフタースクールの校長を兼ねるほか、先生が放課後のプログラムを担当するなど、学校とのつながりも持たせている。

料金には預かり料とプログラム料があり、預かりは週1回で月額8,400円、同5回で3万4千円。プログラムは週1回で月額6千円という。